



今月の研究成果トピックス (アグリサーチャーHPより)

レタスの安定的な契約取引を支援する作付計画策定・ 出荷予測アプリケーション

アクセスの
多い研究成果を
ご紹介



国内のレタス生産では契約取引が増加していますが、露地栽培では出荷時期・数量の正確な把握が困難で、安定的な契約取引を行う上で課題でした。そこで、生育モデルとメッシュ農業気象データを用いた生育シミュレーションにより、作付計画の策定と出荷数量の予測ができるアプリケーションを開発しました。

研究機関：農研機構中央農業総合研究センター

研究者：菅原幸治(現:革新工学センター)他1名



■研究成果はこちら

研究者の声 菅原 幸治さん

このアプリケーションは生産者、農協、都道府県などに配付しています。キャベツ等の葉菜にも対応でき、広く活用いただきたいと考えています。

現在は生産者、実需者双方に役立つシステム作りを念頭に、産地間出荷調整支援システムを開発中です。

■研究者情報ははこちら



■この技術を導入している 農業生産法人(長野県御代田町)の声

レタスの契約取引を行っています。年間出荷計画に対応した圃場作付計画を立てる上で、出荷時期や数量が予測できるこのアプリケーションが役立っています。年間を通して事前に出荷数量が予測できるので、取引先との契約の安定化にもつながっています。

■Webアクセス情報(2019年1月)
訪問者数:8,844名(累計:179,992名)

■イベント情報

・施設園芸セミナー

2月26日(火) 埼玉県さいたま市

・加工・業務用野菜セミナー

3月7日(木) 埼玉県さいたま市

・第12回農業気象研究会

「気象情報とICTを活用した栽培管理
支援技術の展開」

3月13日(水) 東京都港区

[このほかの情報ははこちら](#)

